

第12回 DAAS運営委員会 議事要旨

(1) 日 時 : 2009年12月16日(水) 午後2時~4時

(2) 場 所 : 財団法人ベターリビング 1階 BL101会議室

(3) 出席者 : 敬称略 順不同

運営委員長 : 三塩(日本設計)

副委員長 : 南(慶應義塾大学)

委 員 : 今倉(建築業協会)、早川委員代理/安生(日建設計)、竺 (建築学会)、
鈴木(日本建築士会連合会)、早川(日本建築士会連合会)、池田(日本建築家
協会)、兼松(日本建築家協会)、本多(山下設計)、真木(建築学会)

事 務 局 : 桐原(CBL)、伊藤(CBL)、細井(CBL)五十嵐、末木、武藤

国土交通省 : 遠山(住宅局建築指導課課長補佐)

(4) 配布資料 :

- 資料 1-1 第4期(2009-2010 年度)事業計画 業務方針(案)
- 2 第3期企画部会ビデオ作成 WG 報告及び第4期 WG 参加のお願い
- 3 特集企画 VIDEO 掲載報告・撮影予定
- 資料 2 卒業設計大賞応募者一覧
- 資料 3 表彰作品資料収蔵作業報告
- 参考資料 第4期(2009-2010 年度)事業計画(総会資料)

(5) 議事

■承認事項

第4期(2009-2010 年度)活動計画詳細の件

[議案1] 第4期事業計画 業務方針(案)

- 資料 1 に基づき、当期業務方針案について事務局より説明したところ各事項について、以下のような説明及び意見交換があり、それを反映して進めていくことが了承された。

・「オープンアライアンスパートナーが保有する資料のデジタル収蔵について」は、参考資料第4期(2009-2010 年度)事業計画(4)コンテンツ整備の「⑦JIA-KIT アーカイブスとのアライアンス(デジタル化収蔵と資料公開)」を参照し、金沢工業大学とのアライアンスという表現を、建築アーカイブス研究所・JIA-KIT 建築アーカイブスに承認を受け、デジタル化収蔵のアライアンスを実施することを補足する。

【以下、意見等】

(事務局) 昨年度のトライアルにより図面等のスキャニングについては技術的に可能であると判断している。金沢工業大学、京都工芸繊維大学についても DAAS の収蔵の軸にそったデジタル化や共有、協働をしていきたいということで準備をしている。全国のアーカイブスとの連携をしていくことの最初の取り組みと考えている。

(竺委員) オープンアライアンスについては、具体的には、建築アーカイブス研究所との連携ということでもあるが、研究所独自の収集もあるが、JIA-KIT 建築アーカイブス研究所の

収蔵資料等も多く保有している。この建については JIA の建築アーカイヴス研究所の委員会、及び JIA 理事会でも了承頂いているということを補足させて頂きたい。

- ・「第4期ビデオ作成ワーキンググループの設置」については、以下の質疑及び発言の後、JIA 兼松委員を選出することで承認された。

【以下、意見等】

(事務局) ビデオパースペクティブの検討も含め、幅広い分野、例えば、編集者、歴史家、建築写真家などのインタビューを視野に入れていきたい。これまでも様々な方の企画について委員会で意見を頂いている兼松委員を事務局より推薦したいと考えている。その他、委員の方々でも参加希望があればお願いをしたい。

(兼松委員) アイデアを出すような事は出来るが実務作業は難しい。

(事務局) 前回の WG を例とすると、撮影者の紹介、及び企画検討に意見を頂き、その他事務作業や調整作業は事務局で行っている。その他撮影の立ち会いなどの希望があれば参加して頂いている。

(兼松委員) 村井修氏、林昌二氏との対談の際に、雑誌に発表していない写真も拝見した。竣工写真以外のご自身の作品にテーマを絞るなどのインタビュー企画もできるのではないかと考えている。また5分程度の、短く複数のインタビューを撮影することで現在の予算でより多くのインタビューも可能になるのではないかと考えている。WEB という性質上、短いビデオを掲載するという方向も考えられるのではないかと。現在話を伺っておきたい年輩者の提案も考えている。

(事務局) 兼松委員には、企画に同席、対象者へのお願いなどをお願いしたい。都合のつく範囲でワーキンググループに参加願いたい。

(兼松委員) 了解した。

(全員) 異議無し。

- ・本年度の活動について

【以下、意見等】

(事務局) UIA2011 TOKYO について。学術部会がテーマを決め、運営部会が当日の役割を担う予定と伺っている。DAAS としてどう関わるかは表明していないが、コンテンツが充実してから紹介をしていきたいとは考えていた。どのように DAAS から発信をするか、その内容については、今後委員会でも相談したいとは考えている。

(笠委員) アライアンスパートナーとして。インタビュー撮影に行った際に資料の保全状況、将来の予定など確認をお願いしたいと思っている。状況によっては、どこかで資料を引き受けなくてはならない場合がある。JIA、DAAS 等どちらでひきうけるにしても、現物資料を残すことも視野に入れていただきたい。

(事務局) 資料の保全に関して、インタビューを行った方々に撮影の際だけでなく、その前後にもヒアリングを行ってきた。昨年度のビデオ撮影で内田祥哉氏からは、実験写真やその他様々な資料を見せて頂いた。資料の一部を DAAS でのデジタル化をされており、内田氏の希望により、デジタル化した資料を建築学会にも寄贈した。

(笠委員) JIA のアーカイヴス委員会でも資料収蔵の努力をしているが、その際に資料収集の呼びかけだけでなく、表彰作品の情報、写真情報について DAAS の紹介もして連携して

いきたいと考えている。

(事務局) 連携を考えて活動を進めていきたいと考えている。それぞれに活動を行うことで、資料の幅も広がっていくと考えている。表彰については DAAS が現在進めているが、JIA は独自の視点や価値観での収蔵を行うことで相互に補完ができるのではないだろうか。DAAS としても JIA-KIT も紹介をしていきたいと思っている。

[議案2] 卒業設計大賞選考について

資料3の応募作品についての紹介と、趣旨説明、審査基準、現在の選考の進捗状況についての説明を事務局より行った。今後の選出については選考委員に一任をし、進めて行くこと了承された。

■ 報告事項

[表彰事業 作業進捗についての報告]

事務局より中間報告をしたところ、以下の意見交換があった。

【以下、意見等】

(事務局) 現在組織系設計事務所の委員の方に表彰事業の協力をお願いしている。本日出席されている委員より、進捗をご報告頂ければお願いをしたい。

(安生氏) 前年のトライアルにより要領を理解できたと考えている。表彰作品の該当数が多い為、社内のテレビ会議にて担当者に依頼をしているところである。疑問点は随時事務局に確認している。

(本多委員) 作業を進めていくなかで感じていることは、クライアントの承諾を集めるのが大変。古いものが多く、情報を掴むのが難しい。

(三塩委員長) DAAS に相応しい写真を選ぶようにしている。竣工時の説明的な写真などは避け、ディテールなどカメラマン独特のカットを選ぶようにしている。少し多めに 6~7 枚を選び、各クライアントに了承確認をしている。諸元データのフォーマットファイルへの入力作業も平行して作業している。デジタル化する写真の選定は自ら行った。

(事務局) 予算内での資料収蔵数の調整については事務局にて進めているところである。設計者への依頼に際しては、補正が必要な劣化した写真から受け付けている。また、竣工後、改修などで当時と違った建物になっているものも、新旧の写真を載せ、写真撮影の日にちなどのデータも追記するということがアーカイブの意味がでてくると考えている。これによりアーカイブの意義が浸透するとも感じている。この作業で出てきた資料保有者、及び権利者からの質疑応答を皆様にも見て頂き今後の作業方針の参考にしたいと考えている。